

# ジュニア陶芸 開催

令和4年度の手始めの自主事業として、今回新たに設定したジュニア陶芸を開催しました。対象は小学校4年生から中学校3年生までとし、彦根市広報などで広く募集をかけました。時間は、午前と午後の二部構成で実施しました。

内容的には、自然の家で実施している手回しろくろの成形の一連の工程の一端を体験してもらうことをねらいとしています。所員が事前に切り分けた粘土（約800グラム程度）を使って手回しろくろ（今回は、各自手を使って回すものを使用）で作品を作ります。

まず、体調チェック、検温、消毒をして受付後研修棟2階で所員から、注意事項と成形の説明を受け、いよいよ開始です。研修棟2階の部屋は、主として陶芸関係で使用する部屋に割り当てており、前回の絵付け教室でも使用した12畳ほどのこじんまりとした部屋で、独立しているため作品作りに集中できると以前実施した自主事業の参加者の方がおっしゃっていました。

陶芸の流れは、成形→仕上げ→乾燥→素焼き→釉薬かけ→本焼き→完成となり、そのうち、成形の工程を行います。

粘土は焼くと収縮するので想像している大きさより約2cm程大きく作るとよいということを知り、さてそれから何を作るのかを考え始めました。何を作ってもよいと言われるとなかなか思いつかないもので、しばらく考え込んでしまいました。ここで図工や美術の時間に学んだことが生きてきました。実際に作る物がはっきりしていきと思いの器の大きさをイメージしてから器作りに入りました。まず、手回しろくろの中心に粘土を置き、粘土を均一で平らにするために手のひらでたたきます。はじめはなかなか思うようにはいかなかったけれど、何度かやり続け時間がたつにつれ上



手に平らにすることができました。

そして、手回しろくろを回し、回っている向きに針先を向け軽く線だけを入れた後、線にそって針で切り取っていきます。力の加減が難しそうですが、指を上手に使い丁寧に作業ができていました。土台ができたならそこに水を軽く塗りつけ、紐状にした粘土を置き、土台の粘土と紐状粘土を指で押しつけ形を作ります。つけた



後のつなぎ目の線が内側や外側にあるので、指でなでて丁寧に消す作業へと続きます。手回しるくろで粘土を積み上げるときに粘土に空気が入ったり、しっかりくっついていないと破裂して壊れたり、持ったときにとれてしまったりすると聞いて慎重にまた、力を込めて仕上げていきました。

はじめはおぼつかない手つきや手さばきでしたが、だんだんと手慣れた様子になり、テキパキと作業をこなすことができました。一つ一つの工程を丁寧にそして美しくしていこうという姿勢に所員も感動していました。

目指す大きさになるまで、繰り返し紐状粘土を積み上げていきます。なかなかこの作業が大変で、すこし指の形や方向が違っていると形がゆがんでしまうので、時間をかけ様子を見ながらじっくりと作業をしました。最後に形を整えて完成。次の工程の仕上げ（削り）へと展開していきます。

今回参加したジュニアの方々は、陶芸に関心があり何か作ってみたいということで参加したということでした。

この後所員で仕上げ（削り）をし、完成へとつなげていきます。

まず、各自が作った作品の裏を削って形を整え、軸になる線を針で描きろくろ台を回します。仕上げに底の厚みとでこぼこしている部分をなくすために水を絞ったスポンジでなめらかにします。だんだん表面がつるつるになり、滑らかになりました。完成です。



この後、800度で素焼きをした後に、希望した色の釉薬をつけて1230度で本焼きをします。

完成が楽しみです。なお、完成した作品は、自然の家から作られた方に連絡をして後日引き取りに来ていただくことになっています。

和やかな雰囲気の中で自主事業が終わりました。参加してくれたジュニアの方々は、きっと陶器ができあがるのを心待ちにされていることなのでしょう。お疲れ様でした。

自然の家では、陶芸体験を深化させるためにさまざまな取り組みを考え展開しております。陶芸作品作りにチャレンジしてみませんか。

所員一同、皆様のおいでを心待ちにしております。